

令和三年度 第四十二回卒業証書授与式 式辞

日に日に、温かさが増し、成瀬の杜の櫨の木々にも、春の息吹がひしひしと、感じられる今日この頃、本日ここに、令和三年度東京都立成瀬高等学校第四十二回卒業式を挙行するに当り、御多用中にもかかわらず、保護者の皆様の御臨席を賜りましたことを、心より御礼申し上げます。

保護者の皆様には、立派に成長されたお子様の晴れの姿を御覧になり、今日までの日々を思い返されて胸を熱くされているのではないかと拝察いたします。お子様の御卒業を心からお慶び申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました、二七四名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。特に、一昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大に伴う厳しい学習環境下においても、しっかりと高校での学びを続け、本日の卒業式を迎えられたことに改めて祝意を申し上げますと思います。

さて、我が国が人口減少と人生百年時代を迎える中、人工知能（ＡＩ）が進化することにより、パラダイムシフトという価値観の転換が起こり、私たちの生活に大きな影響を与えると予想されています。アメリカのグーグルの技術部門を担当するレイ・カーツワイル氏は、皆さんが四十二歳になる二〇四五年には、ＡＩが人間の能力を超える技術的特異点「シンギュラリティ」が到来すると述べています。

四十五歳といえば、皆さんが社会的に活躍している頃、百歳までの人生にはまだ五十五年も残されている頃です。皆さんは、今後、このＡＩとどう向き合って生きていくことになるのでしょうか。

ＡＩがいかに進化しようとも、それが行っているものは、与えられた目的の中での処理にすぎません。一方で、私たちは、さまざまな場面や状況を理解して、自ら目的を設定し、その目的に応じて必要な情報を見だし、情報を基に深く理解して自分の考えをまとめたり、答えのない課題に対して他者と協働しながら、正解のない目的に応じた納得解を見いだすという強みを持っているのです。

皆さんが、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的

に向き合って関わり合い、その過程を通じて自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていくことに期待しています。

一方、時代が変化しても変わらないものもあります。今から八十六年前に出版された吉野源三郎の著書『君たちはどう生きるか』という本が、数年前に大きな反響を呼びました。

本書は、色褪せることのない人間の生き方についての指針が盛り込まれており、社会の仕組み、経済、学問、貧困などの問題について、主人公である旧制中学二年生の体験を通し、物事をどう捉え、いかに行動するかについて、考える課題として提示しています。また、この著書は、日本が戦争へと突き進む時代にかかれたものであり、時代背景は大きく異なりますが、時代や世代を超えて、私たちが直面している紛争、自然災害、事故、社会問題などの脅威を前にして、どう生きるかを切実に問いかけてくれると思います。

皆さんもそのような課題に対して目を背けることなく、柔軟でしなやかな発想のもとで、自分のものの見方や考え方をしっかりと持ち、さまざまな困難を乗り越えていくことが大切です。

インド独立の父、マハトマ・ガンジーの言葉に「永遠に生きるかのように学びなさい。」という名言があります。短い言葉ですが、学び続けることの大切さを示唆する重みのある言葉です。

皆さんは、コロナ禍というまさに答えのない課題に向き合い、学びをつづけた三年間でした。本日、樺（けやき）の杜があるこの成瀬の地を、自信と誇り、そして夢と希望を抱いて、新たに旅立つことになります。夢は希望であり、目標でもあります。自分自身の可能性をしっかりと見極め、チャレンジする精神をいつまでも持ち続け、決してくじけることなく、強い意志と努力で夢の実現に向けて突き進んでください。

最後になりましたが、あらためて保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。お子様は、人生の中で心身の変化が最も激しいときである高校での三年間を終え、このように身体も心も立派に成長され、今、学び舎を巣立とうとしています。さぞかし感無量のこととご拝察申し上げます。またこれまでにいただいた本校への御支援と御協力

に対し、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

そして卒業生の皆さんに最後に一つお願いがあります。今日、自宅に戻ったら、家族の方に一言、感謝の気持ちを伝えてください。

結びに、在校生、教職員、保護者の皆様と共に、卒業生の皆さんの輝く未来を祈念して、式辞といたします。

令和四年三月五日 東京都立成瀬高等学校長 高野 修一